血液等曝露後の感染症検査の受検及び抗HIV薬内服のための説明書

（被曝露者用）

**HIV迅速検査の実施**

□ この度発生しました血液等曝露事故について、あなたがHIV感染予防を目的とした抗HIV薬の内服をすることの必要性を検討するために、あなたのHIV迅速検査を実施する必要があります。

□ HIV抗体が作られるまで2～3か月かかると言われています。真の結果を得るため、抗HIV薬服用後も、HIV検査を複数回行うことになります。目安としては、事故発生直後、その6週間後、3か月後です。

□ 抗HIV薬を選択する上で、また、労災保険の給付対象となるか判断する上で、必要であればHBV及びHCVの検査についても実施します。

□ HIV、HBV、HCV検査等の結果は、あなたのプライバシー保護に十分配慮し、本人のみにお伝えします。また、個人情報については、当施設の個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。

**抗HIV薬の内服**

□ 針刺し等でHIV陽性血液に曝露された場合の感染のリスクは0.5～0.3%と、B型肝炎やC型肝炎の同じような曝露の場合の感染リスクに比べ1/100～1/10となりますが、０%ではありません。

□ 現在、感染が成立してしまった場合、治療によりエイズの発症を抑えることはできますが、治癒できるような方法は確立されておりません。

□ 感染後、できるだけ早く抗HIV薬を内服することで、感染のリスクを低下させることができます。

**内服される抗HIV薬**

□ 薬剤名：ツルバダ錠（略名：TDF/FTC）、アイセントレス錠400mg（略名：RAL）

□ 飲み方：１回目としてツルバダ錠 １錠及びアイセントレス錠400mg １錠をできるだけ早く内服し、その12時間後、２回目としてアイセントレス錠400mg １錠を内服する。

以降、拠点病院の受診まで、12時間毎に１回目と２回目を交互に内服する。

□ その他：①併用注意薬もありますので、現在、内服している薬があれば、自院あるいは配置医療機関の医師及び薬剤師に確認をとるようにしてください。

②下記の「内服にあたっての注意点」の他にも、頭痛、発疹、消化器症状等の副作用が起こることがあります。

**内服にあたっての注意点**

下記について確認し、いずれか該当する場合は、拠点病院の専門医に内服について相談して下さい。

* 妊娠の有無の確認

ツルバダ錠及びアイセントレス錠400mgは、妊娠初期の胎児に対する安全性が確立されていません。

* B型肝炎患者であるかの確認

ツルバダ錠は、B型肝炎患者が内服を中止した場合、肝炎が悪化することがあります。

* 腎機能低下があるかの確認

ツルバダ錠は、腎機能の低下した方が服用すると腎機能障害が起こる可能性があります。

**内服後について**

* 内服継続の適否について判断、及び感染の有無を評価するために、早めに拠点病院を受診する必要があります。
* 前述のとおり、感染の有無を評価するために、HIV検査を複数回、受けることとなります。

説明日　令和　　　年　　　月　　　日

説明者